



第39回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会  
学術セミナー4

# 感覚器としての 口腔と真菌症

～周術期口腔機能管理(Ⅲ)に  
おける口腔カンジダ症対策

2021.

1.28(木)～2.21(日)

※大会HP

(<http://www.assiste-j.net/jsoo39/>)にて  
参加登録した方のみご視聴頂けます。

演者

関谷 秀樹 先生

東邦大学医学部口腔外科学教室 准教授



共催：第39回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会  
富士フイルム 富山化学株式会社

## 感覚器としての口腔と真菌症 ～周術期口腔機能管理(Ⅲ)における口腔カンジダ症対策

東邦大学医学部口腔外科学教室 准教授 関谷 秀樹

周術期等口腔機能管理料(Ⅲ)は、がん等に係る放射線治療若しくは化学療法を実施している患者(予定している患者を含む。)又は緩和ケアの対象となる患者であつて(中略)管理計画書に基づき、歯科医師による必要な口腔機能の管理を行った場合に算定する(2019年度改訂)、と保険収載されている。

CTCAEv5.0-JCOGに記載がある口腔関連の有害事象は、齲歯、口内乾燥、口腔粘膜炎、口腔内出血、歯周病、カンジダ(日本語定義:口腔粘膜表面のカンジダ感染が疑われる)、歯感染、顎骨壊死、開口障害などである。その中で、口腔乾燥症、口腔粘膜炎、口腔カンジダ症は、味覚などの感覚器としての口腔を脅かし、経口摂取におけるQOLを著しく低下させる。がん化学放射線治療完遂を妨げ、治療成績を低下させる可能性がある。

今回は、周術期口腔機能管理(Ⅲ)実施時における、口腔カンジダ症関連の管理について、演者の臨床からの経験に基づき、口腔乾燥の改善と薬物療法の効果、日常における口腔管理などに焦点を絞り、お話しする予定である。

口腔カンジダ症は、いわゆる日和見感染によって起きる口腔内の真菌感染症である。口腔カンジダ症は、臨床的には経過および症状により、急性偽膜性カンジダ症、急性紅斑性(萎縮性)カンジダ症、慢性肥厚性カンジダ症、慢性紅斑性(萎縮性)カンジダ症の4型に分類される。口腔乾燥症との関連性も深い。反復する口腔カンジダ症が、シェーグレン症候群と診断され、薬物療法後に改善した症例もある。口腔乾燥と抗真菌薬の効果についての後方視的な研究についても言及し、本学術大会の趣旨である「わかっていること、わからないこと(これから調べなければならないこと)」を解説する。

さらに、転移性肝がん緩和ケア時に発症した舌カンジダ症の症例を供覧しながら、緩和ケア時における口腔管理の意義についてもふれる。